

議案第40号は、予算特別委員長報告のとおり決定いたしました。

次に、日程第7、議案第41号 平成30年度長井市浄化槽事業特別会計補正予算第4号の1件について、予算特別委員長の報告は原案可決であります。

予算特別委員長報告のとおり決するに賛成の議員の起立を求めます。

(起立全員)

○**渋谷佐輔議長** 起立全員であります。よって、議案第41号は、予算特別委員長報告のとおり決定いたしました。

次に、日程第8、議案第42号 平成30年度長井市後期高齢者医療特別会計補正予算第1号の1件について、予算特別委員長の報告は原案可決であります。

予算特別委員長報告のとおり決するに賛成の議員の起立を求めます。

(起立全員)

○**渋谷佐輔議長** 起立全員であります。よって、議案第42号は、予算特別委員長報告のとおり決定いたしました。

次に、日程第9、議案第43号 平成30年度長井市宅地開発事業特別会計補正予算第1号の1件について、予算特別委員長の報告は原案可決であります。

予算特別委員長報告のとおり決するに賛成の議員の起立を求めます。

(起立多数)

○**渋谷佐輔議長** 起立多数であります。よって、議案第43号は、予算特別委員長報告のとおり決定いたしました。

次に、日程第10、議案第44号 平成30年度長井市水道事業会計補正予算第3号の1件について、討論の通告がありませんので、討論を終結し、採決いたします。

議案第44号について、予算特別委員長の報告は原案可決であります。

予算特別委員長報告のとおり決するに賛成の議員の起立を求めます。

(起立全員)

○**渋谷佐輔議長** 起立全員であります。よって、議案第44号は、予算特別委員長報告のとおり決定いたしました。

## 日程第11 市政一般に関する質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、日程第11、市政一般に関する質問を行います。

ここで申し上げますが、3月定例会は市議会の申し合わせにより、会派代表、政党代表、個人の順に質問を行うこととされております。

なお、会派代表質問に限り、質問者と同一会派に属する議員は、当該会派代表質問が終了した後に、残時間の範囲内で引き続き関連質問を行うことができます。

質問の時間は答弁を含めて60分以内となっておりますので、ご協力をお願いします。

初めに、会派代表質問を行います。

それでは、順次ご指名いたします。

### 金子豊美議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 順位1番、議席番号3番、金子豊美議員。

(3番金子豊美議員登壇)

○**3番 金子豊美議員** おはようございます。

寒暖の差が激しいが、雪の少ない冬が終わり、この議場を初め各施設では啓翁桜が見事に咲いているこの3月議会、会派長井創生を代表して一般質問をさせていただきます。

平成31年度施政方針について。

初めに、第五次総合計画「みんなで創る しあわせに暮らせるまち 長井」に基づいて実施されているまちづくりは、3つの重点戦略を設定した前期基本計画5カ年が間もなく終了するとのことです。

まず、元気な人づくり戦略では、子供から高齢者まで誰もが健康で元気に暮らせるまちを目指し、子供の医療費無料化の拡充、24時間対応の訪問看護サービス開始、学童クラブの施設整備、市内小中学校の校舎の耐震化や大規模改修、エアコン設置、置賜生涯学習プラザ陸上競技場や多目的運動広場等の整備を行ったとのこと。

2つ目として、にぎわいと働く場づくりの戦略では、産業の連携や観光交流の拡大により、新たなにぎわいを生み出すために、観光交流センター「道の駅 川のみなと長井」の整備ややまがた長井観光局の設立など、中心市街地の活性化政策を実施、農業で働く人をふやすために、新規就農への支援や6次産業化を推進、置賜地域地場産業振興センターが起業・創業を促す「イノベーションLab. 長井 i-b a y」をタスに開設したとのこと。

そして、3つ目として、活発な地域づくり戦略では、これまで地域づくり活動の中心を担ってきた地区公民館単位に地域づくり計画を策定し、より柔軟な活動ができるようコミュニティセンター化を進めてきたとのこと。さらに、近年頻発している自然災害等の危機管理への対応を図るため、各地区の自主防災組織の組織化や活動を支援し、災害情報を速やかに市民の皆様へ届けるため、コミュニティFM「おらんだラジオ」を開局。また、防災ラジオを希望する世帯に無償で貸与するなど、緊急時の情報伝達手段を整えてきたとのこと。

前期5年間、3つの重点戦略に基づき実施してきた事業については、一定の成果があったと感じてるところであります。

後期基本計画の策定に当たっては、30年後も

50年後も市民が幸せに暮らしていける持続可能なまちを形成していくため、市民の皆様からまちづくりに関するご意見を伺うタウンミーティングを開催してきたとのこと。後期基本計画においても、多くの市民の皆様と意見を交換し、6つの課題、1つ目、市民の健康と安全・安心の確保、2つ目、少子高齢化への対応、3つ目として、地域経済の立て直し、4つ目、まちの魅力の向上、5つ目、公共施設、まちの基盤の老朽化対策、そして6つ目は、持続可能なまちづくりに引き続き取り組んでいくとのこと。

そして、施政方針「はじめに」の最後に、「これまで、私は「長井創生」に全力で邁進してまいりました。平成31年度は、新しい発想で、さらに長井創生を加速させ、市民の総力を結集し、まちづくりに取り組んでいく所存でございます」と市長は施政方針で述べています。多くの課題を抱えた中の施政方針と感じ、このことを踏まえながら質問をさせていただきます。

まちづくりの重点戦略におけるテーマ「長井で生まれ、長井で育ち、長井で働く好循環を強化するため、子育て世代の定着を目指す！」をもとに、3つの魅力アップに取り組むとのこと。

重点戦略1として、世界へ挑戦できる子どもが育つ 長井の子育て魅力アップ戦略、2つ目として、便利で快適に暮らせる 長井のまちなか魅力アップ戦略、3つ目として、豊かな暮らしを実現できる 長井で働く魅力アップ戦略に取り組んでいくとのこと。

重点戦略の1つ目、重点戦略の2つ目、そして重点戦略の3つ目を初め、公共交通ネットワーク関係や空き家対策などを含め、さまざまな分野については、後日、会派所属議員より一般質問や予算総括質疑が予定されていますので、初めに私からは重点戦略3の中から2点について質問をさせていただきます。

1つ目の質問として、観光産業について、国内への外国人旅行者が過去最高を更新し続けているとのことで、一層注目が集まっている中、南陽市、白鷹町、飯豊町とともに、このたび地域連携DMOとして、やまがたアルカディア観光局が設立されました。ながい百秋湖における水陸両用バスの運行や遊覧船の運航など、豊かな観光資源を活かして地域連携によるスケールメリットを発揮しながら多くの観光局を呼び込み、新たな産業の柱となるよう取り組むとのことです。

これまで実績を上げている三淵溪谷通り抜け参拝ポートツーリング、そして水陸両用バスと遊覧船の運航について、それぞれの役割は異なることと思います。新年度は、水陸両用バスについて28日間と期間を長く設定し、運行される予定です。昨今の異常気象の影響もあり、天候など不安視されることも多々あるかと思えます。今回は試行ということで、2020年より本格的に実施予定とのことですが、今回の運行について、さまざまな角度からデータを集約、事業費の精査、財源も含めて慎重に検討、判断すべきと考えますが、市長の見解をお伺いします。

2つ目の質問として、「子育て世代の定着には、住環境の整備も欠かせません。「花咲きタウンみずはの郷」に次ぐ良好な住宅地として、10年間の宅地開発事業計画を策定しながら、事業に順次着手していく予定です」と述べています。以前の一般質問で、南北中学校の生徒のバランス等も考慮しながら検討委員会で検討していく旨の答弁をいただきました。宅地開発は民間でも進められておりますが、市全体のバランスなど考慮すべき点が多くあると考えます。宅地開発事業計画策定については、より積極的に取り組む必要があると思います。市長の考えをお伺いします。

次に、各個別政策の主な取り組みの中から質問をさせていただきます。

3つ目の質問として、(4) 資源を活かし活力を生み出すまちづくりの中で、「四季折々の花や三淵溪谷に代表される水は、本市の重要な観光資源です。引き続き、まちなかを花で彩る「花いっぱい運動」に市民と共に取り組むほか、長井を代表する観光スポットであるあやめ公園の再整備に向けた検討を加速させ、「花のまち長井」のイメージアップを図ってまいります」と述べています。市民のあやめ公園に対する思いは強く、再整備に対する期待は非常に大きいと感じています。再整備までのスケジュール、取り組み方法について市長の考えをお伺いします。

4つ目の質問として、(8) 市民と共に未来を創る体制づくりについて質問をさせていただきます。

「ここ数年は、職員の定年による大量退職が見込まれ、経験の浅い職員が増える一方で、行政課題は多様化し、その業務量・質ともに増大しております。さらに、民間における求人倍率の上昇、大都市への就職志向等により採用試験の受験者が減少傾向にあり、優秀な人材の確保が課題となっております。

このため、人材育成を目的とした年度ごとの研修計画を策定し、派遣研修及び独自研修を実施してまいります。(中略) 職員一人ひとりの資質向上を図ってまいります。職員一人ひとりのスキルを向上させ、その能力を最大限発揮できる環境を整えることで、行政課題への柔軟な対応及び市民サービスの充実に努めてまいります。

市役所の組織につきましては、新庁舎完成に合わせ、組織体制の見直しを図ってまいります。平成31年度は、東京オリンピック・パラリンピックを契機とする文化プログラム beyond 2020の充実を目指し、文化スポーツの振興に横断的に取り組むため、市長部局に連携推進を担当する室などを設置してまいります」と述べて

います。

市職員の育成については、研修会や協議会への派遣研修、必要な知識習得を目的とした独自研修は必要なことと思います。しかしながら、経験の浅い職員にとって最も重要な研修は、身近にいる上司の姿ではないでしょうか。上司の言葉、行動、仕事をする姿こそが職員の手本、学びとなるのではないかと思います。優秀な職員であるかないかは、採用時ではなく、後々判断することだと思います。新庁舎完成にあわせ組織体制の見直しを行うこと、東京オリンピック・パラリンピックに向け、市長部局に連携推進を担当する室などを設置することは必要で、大切なことと思います。ぜひ進めていただきたいと思います。市職員の育成には時間がかかることと思いますが、長井の心を大切に、じっくりと育てていきたいと思っています。それが市民サービスの充実、きめ細かいサービス、サポートにつながることを考えます。市長の見解をお伺いします。

5つ目の質問として、これまで参事制度を導入してきたわけですが、このたび多くの参事の方が退職される予定とお聞きしています。これまでの職務について、参事制度のよい点と課題等について副市長にお聞きします。

この課題、最後の6つ目の質問とさせていただきます。施政方針の結びの中、最後の部分で、「財源をはじめとする資源をどのように投入するのか、育成し、蓄積するのか、あるいは削減するのかのバランスの上に施策を展開していかねばなりません。ボートに例えれば左右のオールのバランスをどう取り、どう足を踏ん張るかです。

(中略) 2020東京オリンピック・パラリンピックが、本市の子ども達の良い記憶となることを願っています。

長井創生は、今と未来をつないで「みんなで創る しあわせに暮らせるまち 長井」の実現

に挑み続けることです」と述べておられます。

新市庁舎建設を初め市民文化会館の大規模改修、学校給食共同調理場整備など公共施設整備計画に基づき、事業が始まります。また、市内6地区足並みをそろえ、コミュニティセンターとして活動を開始します。まさに今が正念場だと思います。活力が湧く長井市のためにも、当局と市議会の連携を密にし、議論を交わしながら最善の方法を選定し、事業を進めることが大切で、必要なことだと思いますが、市長の考えをお伺いします。

最後になりますが、2019長井市の教育行政について質問をさせていただきます。

「いのちを育み「長井の心」を未来につなぐまち」と題してまとめられた長井市の教育行政について質問をさせていただきます。

「教育委員会では、子どもたちが安心して通え、教師や仲間と共に学ぶことのできる学校づくり、文化の薫り高く、子どもからお年寄りまで生き生きと輝く地域づくり、市民がスポーツに親しみ、競技力の向上と健康の増進に取り組める環境づくりをめざして、市長部局と緊密な連携のもと各種施策を推進してまいりたいと考えています」と述べておられます。

教育委員会は、市長部局のほとんどの課と関係を持っています。より緊密な連携を行うことは、とても大切で効果的なことと考えています。特に東京オリンピック・パラリンピックのタンザニア共和国とのホストタウン事業については、文化交流も含め、市民への啓発など多くの課題があると思います。旧長井小学校の活用関係についても、総合政策課を初めとする市長部局はもちろん、各コミュニティセンターとの連携を深めながら市民と一体となって取り組むことが大切なことだと考えますが、教育長の考えをお伺いします。

以上で壇上からの質問を終わります。

ご清聴ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** おはようございます。

長井創生の代表質問であります金子豊美議員のご質問にお答えいたします。

まず最初に、水陸両用バス、観光船の運航の実施に向けた試行について、さまざまな角度からデータの集約や事業費の精査、財源を含めて慎重に検討、判断すべきと考えるがというようなご質問でございます。

この件につきましては、金子議員からもございましたように、水陸両用バス、昨年運行を始めたところでございます。昨年は、この水陸両用バスの試験運行事業と遊覧船の試験運航事業を行ったところでございます。

まず、水陸両用バスの試験運行事業についてでございますが、特定非営利活動法人日本水陸両用車協会に業務委託をいたしまして、昨年7月6日から8日の金、土、日の3日間運行を行いました。1日3便で合計9便を運行しまして、利用者は3日間合計で323名でございます。そのうち市外からは212人と多くの方が乗車されて、全体の66%を占めたということでございます。

遊覧船試験運航事業では、酒田湊観光企画有限公司に業務委託をいたしまして、昨年10月26日から28日のこちらも金、土、日の3日間でございますが、合計11便を運航しまして、365人の方に利用いただきました。こちらの事業につきましても、市外からの利用者が全体の56%と半数を超えまして、宮城県の観光ツアーなどにもご利用いただきました。

両事業とも事業終了後には次の運行を期待する声も寄せられ、また利用者アンケートの結果では、多くの方が満足されるなど需要の大きさがうかがえ、長井ダムを使った有力な観光ツールになると考えております。

平成31年度の運行事業についてでございますけれども、まず水陸両用バスにつきましては、

5月31日から7月28日までの原則金、土、日の週3日間、合計で28日の運行を予定しているところでございます。約2カ月の長期にわたる事業になることから、水位や気候の変化など、さまざまな場面が想定されますので、運休で稼働日数が確保できない場合は、平日の運行日も追加するなどの対応が必要になるということでございます。その対応策を初め料金設定、運行コースや休憩場所など、アンケート等を通して利用者のご意見を伺いながら本格実施につなげてまいりたいと思います。

なお、地方創生交付金の活用により2020年度からは、やまがたアルカディア観光局の事業として実施し、地域連携DMOとしての広域的なメリットを生かしながら、水陸両用バスと新たな資源開発を組み合わせまして、魅力ある観光コースを設定したいと考えております。

長井ダムでは、NPO法人最上川リバーツーリズムネットワークが行うポートツーリングが実績を上げておりますが、ポートツーリングは神秘的な三淵溪谷の魅力、水陸両用バスは車両自体の魅力を生かしたダム湖を中心とした運行になることから、相互に補完し合いながらダム湖の観光を進めてまいりたいと思います。

なお、議員のほうからありました事業費の精査とか財源ということでございますが、今年度は初めての運行ということで運行期間も短かったことから、実質的にマイナスといえますか、持ち出しがあったんですが、31年度からは、これ運行回数もふやしましたし、また状況によってはさらにふやすこともできますので、これは採算的には持ち出しがゼロということで考えておりますし、来年からのやまがたアルカディア観光局での運行につきましては、もちろん収益を見込んでおりますし、十分見込めるものと思っております。

なお、今年度は十分な運行日数、便数が確保できませんでしたので、市民の皆様にももっと

もっと乗りたいんだというような声がありましたので、こちらはことしは市民の皆様にご希望される方全員に乗っていただけるような、そんな工夫などを考えながら、やまがたアルカディア観光局、長井の三淵溪谷の百秋湖の観光ということで一つの観光の目玉にしていきたいと考えております。

続きまして、2点目の宅地開発事業についてでございます。議員からは、宅地開発事業の計画策定については、より積極的に取り組む必要があると思うということでございます。

宅地開発事業につきましては、議員からもご指摘がありましたように、今は核家族化がどんどん進んでおまして、両親と一緒に独身のときは暮らして、結婚されて本来であれば、例えば長男、長女あるいは跡を継ぐという立場の方が結婚された場合、通常は自宅に入ることが多かったわけですが、今はまずはアパート等に住みながら、子供ができたときに、あるいはそれなりの時期に住宅を建てて、親とまた別居して住むということがより一般的になったというふうに考えております。

その際、問題なのは、じゃあ宅地造成すれば買い手がつくかということでございますけれども、今、特に子育て世帯の皆様については、あるいは定年退職してからという方も多いんですが、より交通の利便性の高い、また都市機能の充実した住みやすい、そういったところを求めます。したがって、宅地開発をすれば、それで若い人たちが定着してくれるかということには必ずしもつながらないと。必要条件ではあるんですが、必要十分条件ではないということだと思っておりますので、やはり長井市の都市の魅力をいかに充実させて、これからも将来にわたって長井に住みたいと、そして宅地を求めて住宅を建てるというふうな決断につながるような、そんな魅力あるさまざまな施策をとっていかねばならないと思っております。

こちらについては、施政方針でも述べましたとおり、少子高齢化による急激な人口減少に歯止めをかけるということもありますけれども、一方で、1月に新聞紙上でも大きく話題になりましたけれども、東根市で民間で100区画を超える宅地造成が、ことし販売されるという計画だと。結局山形県内では毎年1万人近い人口が減ってるということなんですけれども、その一方で山形県の35の市町村の中でも毎年何千人も、あるいはマイナス5%も6%も減るところがあれば、この5年間の国勢調査で若干ふえるとか横ばい、減らないという市町村もあるわけですね。したがって、そこは何が違うんだということをよく分析しなきゃいけないと思っております。

先月のあやめR e P oで、「長井でなが〜い暮らし」と題して特集を組みましたけれども、まずは魅力ある住環境の整備ということとあわせて、さまざまな住宅を建てたいという方々に支援の施策をとっております。加えて、先日、旧財務省の官舎を、また定住促進住宅ながいみなみについても子育て専用として折り込みチラシをいたしまして、置賜3市5町にPRをいたしましたけれども、長井市が進めている空き家対策や移住・定住の取り組み、また長井市で利用できる住宅関連補助金の一覧なども掲載しまして、ぜひ長井にお越しく下さい、家を建てるとなら長井市でというようなことを行っているところでございますけれども、現在行っている宅地開発事業については、議員もご承知のとおり、今年度みずはの郷が1区画、それからみずはの郷ウエストが8区画を分譲し、完売しております。みずはの郷全38区画のうち10世帯が市外からの転入世帯であり、市内外で子育て世帯が安価で優良な宅地供給を求めていることを、これは改めて実感した例だと思っております。

今年度は、20年後を見据えた持続可能な都市形成を図る方針とも言える立地適正化計画を策

定いたしました。コンパクトシティ・プラス・ネットワークは、都市機能の集約とその周辺の拠点づくり、そして都市部と周辺拠点を結ぶ交通ネットワークの形成を図ることで、市民に使いやすさ、暮らしやすさを実感していただくことが最重要課題だと言えます。

一方で、空き家の数は年々増加の傾向にあり、現段階で500戸を超えると予想されます。そういったスポンジ化の対応も見据えながら宅地開発事業に取り組む必要があります、従来以上に居住を誘導すべきエリアでの開発が重要になってきます。今年度は、館町南地区において民間による2つの宅地開発が行われ、既に分譲されています。中央地区で残された区画も限られてきた中で、行政主導の宅地開発事業として50区画程度の大規模な分譲を計画するとともに、周辺拠点部については、これは小さな拠点ということなのですが、コミュニティセンター周辺での小規模な宅地開発の計画をし、それらを次年度に予算計上いたしました宅地開発事業計画策定業務の中で、今後10年間の宅地開発事業計画を有識者のご意見を参考にしながら、その方向性と実現性を検討していきたいと考えております。

続きまして、あやめ公園再整備までのスケジュール、取り組み方法はということでございますけれども、あやめ公園の再整備については平成27年度より、あやめ公園のあるべき姿や役割を整理し、どのような方向で整備すべきか、整備の財源はどうするかなど課題と方向づけを庁内で検討してまいりました。再整備の方針を決めるに当たり、先人が大切に保存してきた長井古種と108年の歴史を持つ公園で、過去には山形県一の景勝地として称された長井市民の宝であることから、市民の方々の思いやお考えをお聞きして整備の方向づけを行いたく、今年度より市民検討委員会を立ち上げるべく整備してきたところでございます。

再整備を目指すスケジュールですが、今月中

に1回目の委員会を開催し、これまで整理してきた内容をご説明申し上げ、平成31年度から具体的に検討を重ねてまいりたいと思います。また、財源も重要な計画となりますが、今すぐ活用できる補助事業等々はございませんが、もう既に長寿命化計画を立てておりますので、この長寿命化計画に基づく事業はできると。その一つの例が同じあやめ公園の中である野球場の再整備あるいは市民グラウンドの再整備、これは長寿命化で5割の補助事業でやっておりますので、この長寿命化によるあやめ公園の再整備ができますけれども、ただ、全てができるかということなどもございますので、さらにより補助事業等々もいいものがあつたら検討してまいりたいと思ひまして、なお、平成32年度には整備構想図などをつくりながら、具体的な検討を行いたいというふうに思っておりますが、取り組み方法につきましては、今回の平成28年度にお示しをさせていただきました10年間の公共施設等整備計画の中には入れておりませんので、今後それらについて議会あるいは市民の皆様、有識者の皆様とも協議を重ねながら、意見交換をしながら、いつごろ整備をすべきか、これは慎重に検討していかねばいけないというふうに思っているところでございます。

続きまして4点目、市職員の育成には時間がかかると思うが、長井の心を大切にじっくり育て、それが市民サービスの充実、きめ細かいサービス、サポートにつながると考えるがということでございます。

まず、昨年度の退職者は15名で、今年度もまた15名の方が退職されます。職員の平均年齢、これは一般会計職員の例でございますけれども、推移を見てもみますと、平成21年1月現在では、10年前ですね、45.5歳でございましたけれども、26年には43歳になり、平成31年1月には41.1歳になり、この10年間で4.4歳若返っております。このような職員構成では、若手職員の育成は重

要であり、急務でございます。そのためには、部下が職務を遂行していく上で必要な知識やスキルを上司や先輩職員が随時与えることで教育・育成するOJTの効果が大きいと言われております。

しかし、管理職だけでも10人程度が毎年退職する状況で、役職年齢も年齢が下がり、スピードも昇任が早くなってきております。加えて、社会情勢の急激な変化により、誰もが経験したことのない行政課題に直面し、日々迅速に対応していかなければなりません。行政需要は待たなしで、派遣研修も含め、さまざまな手法で全ての職員の人材育成、資質の向上、そして組織力を高め、市民福祉の向上に努めなければならないと感じています。加えて、職員の心の中に、長井好きだ、長井をよくしたいという気持ちを育てていければ、さらに効果が上がると考えております。ぜひこれからも議員おっしゃるとおり、長井のことを本当に思いながら、市民の幸せのために全力で働く、そんな職員のマインドをつくってまいりたいと思います。

私のほうは最後でございますが、活力が湧く長井市のためにも、当局と市議会の連携を密にし、議論を交わしながら、最善の方法を選択し、事業を進めることが大切で必要なことだと思うということでございます。

日ごろから市議会議員の皆様には、議会及び議員活動の活性化を図っていただき、市民の負託に応えるべくご尽力されていることについて心から敬意を表すものでございます。議会が団体意思の決定を行う機能と執行機関の監視を行う機能を担っていることは十分認識しているところです。議会との関係については、長井市議会基本条例に基づき、緊張関係の保持に努めていくということはもちろんでございますが、必要な政策、事業計画等については適時適切に情報を提供させていただき、議会審議においては、わかりやすく説明するよう努めております。

私どもといたしましては、公正で民主的な議会運営に努めてまいりますので、議会におきましても、このような立場から議会運営についてよろしくようお願い申し上げますところでございます。できますれば、やはりこれからいろいろな我々が経験したことのない施策を展開しなきゃいけないということですから、議会ですと反論してはいけないという、言われたことに対して答えるというだけでは、やっぱりなかなか議論が深められないんじゃないかと。

したがいまして、国でも行っているように、党首討論とかやってますよね。ああいった形で、できれば議会の皆様と意見交換会というのをまたこれとは別に行って理解を深めていく必要があるんじゃないかと。私どもとしては、こういうふうに提案したんですが、これがだめだったら、じゃあどうすればいいのかということで、もちろんご提案もいただいておりますが、なかなかやっぱり私どもだけの考え方、それだけが正しいとは思っておりませんが、そういったことを議場だけじゃなくて、意見交換する場というのはあってもよろしいんじゃないかなというふうに思っておりまして、それらについては、ぜひ議会の皆様からの政策提言みたいな形でいただきながら、その中で、もしできれば意見交換などでできればいいのかなというふうに考えているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 遠藤健司副市長。

○**遠藤健司副市長** 私から、これまでの参事制のよい点と課題について答弁を申し上げます。

参事制を導入して4年経過します。議員ご案内のとおり、人口減少あるいは高齢化といった条件のもとでの地方創生の時代で、各自治体の競争も激化しています。加えて情報化の推進といった、今、市長がお話しになった今まで経験したことのないさまざまな課題が発生しています。これの対応として参事制を導入しています。従来の課単位の縦割りの組織ではスピード感とか、



あるいは解決が難しい場合に、部門内の調整はもとより部門間を超えた連携、調整の機能を果たさせるために参事制があります。

参事制導入以来、随時参事会を開催して、市の重要課題について提言、意見を求めて協議したところでは、さまざまな課題の解決には有効であったと思います。また、月1回庁議を行っていますが、参事はそれぞれメンバーであります。各課から提案された重要課題について協議して、政策決定に大きく関与しております。

議員ご質問の第五次総合計画後期計画の策定についても、また大型公共事業の推進にも大きな力、調整力を持っております。例えば公共事業推進調整参事が委員長で、各参事がメンバーで大型公共事業調整推進会議というものを設けています。ここでは、各部門の公共事業についての進捗状況を報告します。これを相互に確認し合って、議論して意思決定に必要な情報の整理と共有がなされてるというふうに思っております。

一方、課題ではありますが、参事にはやはり部門のトップとしてのリーダーシップが求められています。ただ、部門内の個別案件によっては、担当課長あるいは現場へもっとより踏み込んだ指導、調整をすべきというふうな点もあったかというふうに思います。また、他部門との調整が必要ということは各参事理解しておりますが、お互いに見合ってしまったって、そのきっかけがもらえるといった点もあったかなというふうに感じております。

こうした課題については毎年度改善を求めています。全庁的な役割あるいは部門での役割の認識がやはり全庁的にまだ浸透していないというところもあるかと思えます。31年度以降については、参事制の目的について、参事の役割を一人一人にしっかりと認識させるために、今、市長の講話、私の講話等で行ってる管理職の全体研修とは別に、参事職員に対する研修をして

いく必要があるというふうに私は考えております。

また、複数の部門の調整、お互いに見合うことのないように、それを私が取りまとめる役です。指揮命令系統あるいは業務の流れというものをしっかりと整理して、部門間にわたる調整については、副市長、市長のほうにしっかり上がる仕組みをつくりたいと思います。

なお、各参事も部門の管理職、補佐に対しての研修、講話をさせたいというふうに考えています。それは金子議員がおっしゃった職員の育成、モチベーションのアップにつながるということだというふうに思います。そして、みずからもリーダーシップ、みずからの覚悟というものを身につけるためには、部門内に対する参事の研修をしていく必要があるというふうに考えております。

これからも参事制の目的に合った部門の組織力の向上と部門の内外の調整の円滑化を図って、スピードアップをして間違いのない政策、施策の決定に機能する参事制を構築していきたいというふうに考えております。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 金子議員のほうからは、長井市の教育行政につきまして、総合政策課を初めとする市長部局はもちろん、各コミュニティセンターとの連携を深めながら、市民と一体となって取り組むことが大切だと考えるがというご質問、ご提言をいただきました。

教育委員会は、さまざまな施策を行っているわけでございますけれども、その中には、もちろん教育委員会単独で実施できるものもありますけれども、大きな事業等は当然市長部局との緊密な連携がこれは不可欠であるというふうに考えているところでございます。

議員からご指摘のありました東京オリンピック・パラリンピックホストタウン事業につきましては、その最たるものだというふうに思っ

おります。市長部局、教育委員会各課が総力を挙げて取り組むべき事業であるというふうに考えているところでございます。

ホストタウン事業につきましては、ホストタウンとして選手団を受け入れる体制を整えますと同時に、受け入れ国の文化について市民に広く周知したり、あるいは交流を図ったりと、さまざまな取り組みを進めてまいりたいというふうに考えてございます。

議員もご承知のとおり、今年度でございましたが、長井マラソン大会へのタンザニア連合共和国の選手、それからイカンガー氏の招聘、そして瀬古氏とイカンガー氏との対談、そしてタンザニア選手と小中学生との交流活動などを行ってまいりました。それらの取り組みによりまして、これまでは余り知ることのなかった遠くアフリカのタンザニア連合共和国が実に心が通い合う、心理的にも近い国になったという気がしているところでございます。それは私だけではないというふうに思います。来年度、さらには本番の再来年度に向けましては、一層市長部局との連携を図りながら、教育委員会としましても今年度よりもさらに相互の理解が深まるような取り組みを検討しているところでございます。

また、市内6地区の地区公民館でございませけれども、もう既に3館がコミュニティセンターとして移行になってるわけですが、この4月から全ての地域でコミュニティセンターということになるわけでございます。これまでの社会教育施設から各地区のまちづくりの拠点というふうになるわけでございます。

各地区の地域づくり計画を見せさせていただきますと、これまで地区公民館時代に取り組んできました社会教育、生涯学習関係の事業に対しまして地域づくり計画策定に向けての議論の中で十分に議論されまして、その意義とか意味づけ、これが改めて再確認されまして、地域づくり計

画の中にしっかりとその社会教育、生涯学習関係の事業が盛り込まれているというふうに感じているところでございます。

教育委員会としましては、地域づくり推進課とともに、コミュニティセンターの館長さん、あるいは職員の皆さんとの定期的な情報交換、そして意見交換等を通して連携を十分に図ってまいりたいというふうに考えているところでございます。

そんな中で、例えば先ほど申し上げましたとおり、オリンピック・パラリンピック関連の事業について考えてみますと、長井マラソン大会につきましても市長部局と教育委員会との連携に、これにコミュニティセンターも加わりますことで、地域住民の方々への身近な声かけなどが可能になりまして、参加者の増加あるいは街頭での積極的な応援活動の実施など、これまで以上に市民への事業の浸透が図られるものというふうに期待しているところでございます。

また、これも議員からありました旧長井小学校第一校舎の活用、これにつきましても、子供から大人までを対象に芸術や文化、体験学習、起業家育成、そして観光交流など幅広い事業が計画されております。こちらにつきましても、まちづくりや生涯学習、社会教育と大きくかかわってまいります。したがって、効果的な事業展開につきましては、総合政策課を初めとする市長部局と教育委員会、さらにはコミュニティセンターも加わりながら、実際に運営を担当する指定管理者、ここも一緒になって進めることが特に重要になってくるものというふうに考えているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 3番、金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** 答弁どうもありがとうございました。

二、三お聞きしたいと思いますが、最初に市長のほうにお聞きしたいと思います。先ほどあやめ公園の整備計画等、これから計画を立てて

いくというふうなお話があったわけですが、ちょうど31年の山形県長井市重要要望事項の中に、野川の整備の話なども載っておったわけですが、あやめ公園も含めまして野川の両岸の整備、特に谷地橋から下、あかしあ橋の間までの県の管轄になる部分もあるわけですが、その辺も総合的にいろいろ検討する必要があるのではないかなというふうに考えますけども、その辺、市長の考えをお伺いしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 金子議員おっしゃるように、あやめ公園のよいところというのは、清流が周りに、公園の周りもそうですけども、野川のほとりにあるという環境、また対岸には、はぎ苑などもありまして、あやめ公園の周りにあった、高台のところにあった、かつてにぎわった料亭等は全部もう閉まってしまったわけですので、そういう意味では、はぎ苑に結ぶことによって、もっといらした観光客の皆さんが食事とか温泉とか、そういったことも楽しめるので、以前から橋をかけられないかとか、木橋とか、あるいはそれまでできないとしても、何らかの形で直接あやめ公園から対岸に行けるような、そういう水辺の整備ということをお願いして、県のほうも、それを受けてさまざまな努力をしていただきました。

その1つが川床茶屋も認めていただいて、川床茶屋から見る野川の清流については、少し段差をつけて滝みたいになるような工夫とか、あとはその間に観光協会の皆さんが苦勞されて、野川の中の島のところに少し土があるところなんかアヤメを植えたりとか、いろんなことをしていただいたんですが、なかなか大がかりな整備ということについては県のほうでも予算的にかなり厳しいということでございますので、これは引き続き行っていきたいと思いますが、あやめ公園のこれからの生かし方としては、アヤメの品種は、私どもアヤメのふるさとで長井

古種を数多く持ってるわけですから、これをメインとしながらも、もっともっと水を生かしたあやめ公園のあり方も考えていかなきゃいけないかなと個人的には考えているところです。

○**渋谷佐輔議長** 3番、金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** ぜひそのような方向で周辺の環境整備も検討しながら進めていただければというふうに思います。

次に、副市長に再質問させていただきたいと思います。参事制度はちょうど4年目、私が議員になってから始まった制度だと思うんですが、やはり参事の方も、言葉は悪いんですが、ちょっとおとなしい雰囲気の方もいるものですから、何となく遠慮してる部分が見えるなというふうに、いろんな会議で感じております。それを取りまとめするのが副市長の役目だというのが先ほどあったわけですので、ぜひ参事制度を生かすも殺すも副市長の采配次第だなというふうに感じたものですから、その辺再度決意等を新年度に向けてお聞きしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 遠藤健司副市長。

○**遠藤健司副市長** 先ほど答弁でも申し上げましたが、31年度からは参事を対象にした研修会をしたいと思います。もちろん私も講師として考えていきたいと思います。例えば思ってるのが、市ではいろいろな市民アンケートをとらせていただきます。これについて各参事がどう読み込んで、各課どういうふうな事業をそれに対応すべきか、そういったものをしっかり考えさせて発表させる。それをまた現場にフィードバックする。そういったこととか、あるいは働き方改革の中で、時間外の削減というのが全部門求められているわけですが、そういった場合に、それぞれの業務のやり方をしっかりと棚卸し、見直しして、いかに時間外を削減するか。そういうものを各部門で考えようと、それをみんなで情報を持ち合おうと、そういったことをそれぞれの参事に意見を求めていく。そういったこと

によって、参事、そして長井市の内部の活力が発揮できるかなというように考えておりますので、来年度はそういう覚悟で向かっていきたいと思っております。

○**渋谷佐輔議長** 3番、金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** ぜひそのように進むようにご期待申し上げたいと思っております。

最後になりますが、教育長にですけども、先ほどご答弁いただいた部分で、やはりマラソンとか、あるいは駅伝等についてもですけども、役員の方々はある程度関心あるんですが、市民の方々の盛り上がりというか、沿道の応援にしても、いま一つ盛り上がりには欠ける部分があると思っておりますので、その辺コミセンとか当局も含めてですが、市内全体でももう少し盛り上がるようなことを当局とも話ししながら、今後進めていきたいというふうに思っておりますけども、再度お聞きします。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 私も全く議員と同じように考えてございます。ことしは沿道でさまざまな方がタンザニア選手の、何でこんなに速いのというような声があちこちで聞かれました。それだけ関心も盛り上がっているというふうに思っておりますので、次年度になりますけれども、さらに沿道の応援者数がふえるように、特に各コミュニティセンターの館長さんと十分に話をしながら応援体制、小旗なども無料で、これは総合政策課のほうで配っていただいたこともあるわけですけども、そういう小旗を振りながら、いわゆる走る参加だけじゃなくて、見る参加、応援する参加、こっちはほうについても市長部局と一緒に力を入れてまいりたいというふうに考えております。

○**渋谷佐輔議長** 3番、金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** ぜひ今の教育長の言葉のとおり、参加する人、走る人は走る人の部分で活躍する。あと走れない方については応援、そ

の他の部分で協力する。そして、市民全体が盛り上がるような大会にさせていただければというふうに思ったところです。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

## 小関秀一議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位2番、議席番号11番、小関秀一議員。

(11番小関秀一議員登壇)

○**11番 小関秀一議員** 改めて、おはようございます。

きょう、議場の啓翁桜も定例会の開会日よりはずっと花を咲かせております。また、けさ、交通安全見守り隊で道路に立っておりましたら、土手にフキノトウがもう既に芽を出しているというふうなことであります。比較的積雪というか、雪が少なかったことしの冬が終わろうとしております。

幸い道照寺平スキー場には、ぎりぎりの積雪で、しかも北斜面に恵まれておったおかげかもしれませんが、昨日までスキー場を利活用できたというふうなことは、大きな事故もなく、幸いなことだったなというふうに思っております。

雪国の半年の暮らしは本当に重いものがありますが、こうした天候の戦いから始まるというふうに思うとき、平成最後の年を穏やかに過ごせる毎日に感謝をしながら、そして今後も長く未来につなげる地域の安泰と市民生活の福祉向上を願って、緑風会より代表して市政一般について質問させていただきます。

特に平成30年間を振り返れば、かつてない地球規模の災害、やむことのない世界中での紛争、経済のさらなるグローバル化による各国の経済的な混乱など、一つ一つの出来事がこれまで体